

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふらっぶ高陽			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～	2025年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	72名	(回答者数)	52名
○従業者評価実施期間	2025年12月6日		～	2026年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月25日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>●発達障害についての高い専門性があるところ</p> <p>発達障害の子ども達の感情理解やメタ認知の育成に効果があることが実証されている〈SEL：社会性と情動の学習〉〈PBIS ポジティブな行動介入と支援〉を二本柱に据えた療育を実践しており、大きな成果を上げている。</p>	<p>●専門性を高めるためのスタッフ研修の充実</p> <p>専門家による月1回のスタッフ研修会を実施し、専門性の向上を常に図っている。また、公認心理師、作業療法士など専門性のあるスタッフを採用し、専門的な視点で子どもをアセスメントできるようにしている。</p>	<p>●スタッフが主体的に学ぶ</p> <p>スタッフが主体的に自己研鑽を積んだり、毎日のミーティングの中で専門的な視点に立った情報交換をするなど、あらゆる機会を通して、スタッフのスキルアップを図っている。</p>
2	<p>●運動環境が充実しているところ</p> <p>芝生で伸び伸び運動できる広場があり、感覚統合のための遊具（トランポリン、ボルダリング、滑り台、ブランコ等）が複数あり、運動能力の開発と共に、コミュニケーションや感情教育にも大きな効果を上げている。</p>	<p>●広い運動スペースを有効に使うための工夫</p> <p>発達障害児は感覚面で大きな偏りがあることが実証されているため、子ども達のQOLが向上するように、遊具やスペースの使い方を工夫している。</p>	<p>●年齢・運動能力別感覚統合プログラムの構築</p> <p>子ども達の感覚統合能力の底上げを図るために、年齢・運動能力に応じた感覚統合の個別支援プログラムを作成しているところである。</p>
3	<p>●保護者支援体制ができているところ</p> <p>オープン当初から、子ども支援と保護者支援は大切な車の両輪であると位置づけて取り組んできた。療育毎に保護者とスタッフが情報共有することにより、保護者の理解・協力を得ることができ、保護者の子ども理解が進むことにより療育内容と相まって大きな効果を上げることが可能となっている。</p>	<p>●保護者相談、カウンセリング体制の整備</p> <p>保護者相談やカウンセリングを実施しており、保護者の抱えている問題を理解しサポートしやすい体制が整備されている。</p>	<p>●保護者教育力の向上</p> <p>保護者が我が子を良く理解することは、子どもの健やかな成長のためには必須である。保護者教育力を向上するために、ペアプロ（ペアレントプログラム）の導入を検討、また保護者研修会を年1回実施するなど情報提供と保護者教育を実践している。</p>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>○地域に開かれた活動をする</p> <p>地域に開かれた事業所となるために、地域の老人施設との交流を計画することの必要を感じている。社会とのつながりの体験をする場として、子どもたちに公共施設でのマナーを身につけると同時に人のために役に立つ経験をしてほしいと思っている。</p>	<p>○プログラムによる制約</p> <p>現在のプログラム内容が療育施設内での設定療育が中心であるため、地域の事業所との交流は時間的に物理的に難しい面がある。</p>	<p>○近隣老人施設との交流の再開</p> <p>地域の老人施設ともう一度連携を取り、どちらの事業所にとっても成果が上がるような連携活動に再チャレンジしていきたいと考えている。</p>
2	<p>○身体障害児への支援</p> <p>以前、痰の吸入が必要な子どもが在籍していたときは、保護者と事業所が何回も面会を重ね、危険・事故のない療育体制を実践するための努力をした。母親が施設内に常駐し、痰の吸引を行うという協力体制を作ることにより在籍が可能となった。</p>	<p>○物理的・人的な制約</p> <p>看護師が常駐していないため、医療的ケアを行うことができないなど、物理的・人的な制約がある。</p>	<p>○身体障害者を理解するための研修会の実施</p> <p>当事業所で受けることができる程度の身体障害を持った子どもを受け入れるための準備は常におきたいと考えている。</p>
3	<p>○学校長期休暇中の預かり療育体制がないこと</p> <p>学校が長期休業の最中でも、療育の大筋は変えないという姿勢で療育を積み重ねているため、預かり型の療育を実践することは難しい。</p>	<p>○プログラムを大幅に変更することは難しい</p> <p>当事業所の療育プログラムは、他事業所では実施していないSEL、PBISを組み込んだ設定保育となっているため、預かり型療育の要素を取り入れることが難しい。</p>	<p>○預かり型療育を取り入れる可能性を考える</p> <p>当事業所が実施している枠の中での預かり型保育を実践することは可能であると考えている。</p>